

巻 頭 言

市町村統計調査について

稲敷郡統計事務研究会長

五十嵐 亮 全

統計が現代社会において重要な役割を果していることは、統計にたづさわる者の誇りとしているものであります。国政や自治行政の面はもとより、各種の企業から個人にいたるまですべての分野にわたり、多目的に利用活用され、欠く事のできない使命を果しております。これからますます複雑化する社会機構の中で、統計の持つ意義はきわめて高いものであります。統計の価値を高めるためには、現状をとらえるのみにとどまらず、情報化時代にふさわしい統計が望まれるわけです。

近時、わが国は経済大国となり、産業、経済、教育、文化、労働等各部門にわたつて、著しい進展を遂げ、社会構造に未曾有の変革をもたらした。その反面、都市の過密化、辺地の過疎化等都市機能の低下、農村文化の停滞、道路、交通、公害等社会問題の激発となり、住民の安全性がおびやかされるような憂慮すべき事態となつています。これは、経済の進展と併行して公共対策を行なわなかつたことに起因するものと云えることです。その立ち遅れが、アンバランスの結果となつていられると考えられます。統計はこれらアンバランスを的確に調査し、解決できる資料の提供につとめるとともに住民の安全な生活の推進に寄与することが緊急の課題と思ひます。

さて、私は市町村統計の立場から一言申し上げ、参考に供したいと思ひます。

私は、昭和18年の2月調査員の任命を受け、わずかの期間ではありましたが、末端の統計調査に従事した事があります。当時は世界第二次大戦が激烈をきわめ、わが国は戦況不利の上、国民生活も逼迫していたが、日の丸の下国家総動員法と云ういかめしい法律の中で、総ての分野が戦争に直結した業務であつた。その年8月夏期調査が行なわれていた時、私も例外でなく召集令状により8月15日出征することになつた。夏期調査の調査期日が同じ8月15日であり、出征の日と同時に大変困つた事があつた。かねて出征は予期していたものの、いざとなると死につながる事であり、私事の整理、親類、縁者、友人等と別れの挨拶やら出征の準備等あわただしい中で、調査書を寝もやらずとりまとめたことが、忘れられない思い出となつています。

今はその当時と異なり、都市はもとより、農村地帯も農林業の斜陽に伴い、他産業への就業がきわめて多く、日常生活に余裕のない忙しい複雑な生活環境となつており、個人生活もきびしく交通戦争等危険な環境の中で、寸服をさいて課せられた重要な調査を行なつております。この現実を考える時、これら調査員に対する身分や待遇の面で、これでよいであろうかと考察するのは私一人でしょうか。

幸い各市町村に統計調査員協議会が発足される運びとなり、遂次改善されるでしょうが、少くとも重要な一翼を担つている統計調査員の身分について配慮されることを希望するものであります。調査対象については、単に国や県の委託統計ばかりでなく、市町村計画等の重要な資料となる調査、例えば委託統計によつて調査された結果に基づき、独自に結果表を作成し、これを基礎として、科学的な誤りの少ない市町村計画の実施をはかることが重要であろうと思ひます。現在統計調査結果がより精度の高いものが要求されていることは、申し上げるまでもありません。このことについては、調査員の資質の向上と健全な組織の上立つて調査を行なうことによつてこそ精度の高い調査結果となるであろうと考えられます。

首都圏茨城の進展が予想をはるかに上回るテンポで展開している今日、統計調査の資料は、県政に、市町村行政に大いに活用されることでしょう。私共はこれに対し調査員ともども勉強して価値ある統計資料の作成に協力する決意であります。